



にゅーすれたーふじやま・長泉



2011. 12

芸術三昧「システィーナ歌舞伎～直島」

パナソニックエイジフリー介護チェーン

11月12日 大塚国際美術館(徳島県鳴門市)で「システィーナ歌舞伎」観劇のため、早朝の新幹線で新神戸まで行き、三宮から高速バスで鳴門に着きました。館内をぶらりしていると徳島に住む息子(次男)が到着。チケットは息子からの誕生日プレゼント。息子はスケジュール未定のため自分のチケットはありません。当日券は完売していて残念ながら観ることができませんでした。しかしレストランで待っていた息子はノーベル賞受賞者の根岸英一さんにお会いできたと喜んでいました。私も一幕が終わった愛之助と出くわし声をかけられました。嬉しいものですね。。。。

GOEMONという演題だったので和風のを想像していましたが違いました。フラメンコが入ったりGOEMON(愛之助)の宙吊りシーンもあったりで、(好き好きがあるかも知れませんが)ミュージカル好きな私にとってははかなり見ごたえのあるお芝居でした。余韻を残しながら待っていてくれた息子の車で徳島市内に向かい久しぶりに食事を共にしました翌日は今回の旅で最も楽しみにしていた直島です。島全体が美術館という直島は高松港からフェリーで60分、高速船で25分。。。。私は高速船を選びました。理由は明日月曜日は島中が休み状態になるので一日で島中のすべての美術館や家プロジェクトを観てしまおうと思ったからです。直島港に着いてすぐ荷物をロッカーに預け、足早に地中美術館行きのバスへ乗り込みました。



直島銭湯

日曜日ということもありにぎわっていました。外国人や若いカップルが目立ちました。地中美術館は地面の中の美術館ということで、人数制限があり、一度に多くの人はいれません。自然採光もありますが、ほとんどがネオン管の光に照らされた作品で、そのすばらしさに感動しました。更に感動したのは次の李禹煥美術館(*)でした。立ち寄る人も少なくひっそりとした丘の上にあります。これも安藤忠雄さんの設計で建てられた美術館です。館内には瞑想の部屋というところがあり、私はしばらくそこで作品にふれながら瞑想にふけりました。



次いでベネッセハウスに入り、そこからしばらく歩き最高に眺めがよい場所に人知れず建っている小さな美術館をみつけたときは歓喜しました。「あった！」そこにはウォルター・デ・マリアの「見えて/見えず 知って/知れず」という作品がありました。直島に行かれる方がいらっしやいましたらその場所をこっそりお教えしますね。。。。「自然とアート」から「人」へ・・・家プロジェクトの木村地区は家を改造した美術館です。「石橋」は千住博さんの作品(襖絵など)また「はいしゃ」には自由の女神が。。。あらゆるところで感動の連続でした。翌日は遠回りして高松駅で駅弁を買い、今治に向かいしまなみ海道を高速バスで帰路につきました。直島の宿はベネッセハウスか民宿しかなかったのであえて民宿を予約しました。二段ベッドが2つの四人部屋にふたり、相手の女性は通訳案内人の小川さんでした。しまなみ海道は小川さんが教えてくれたので礼状を出しましたらすぐにお返事をいただきました芸術と暖かい出会いに感謝!



釣り風景(さより)

渡邊啓視

(*) 現在ヨーロッパを中心に活動している国際的評価の高いアーティスト・李禹煥と建築家・安藤忠雄のコラボレーションによる美術館です。半地下構造となる安藤忠雄設計の建物のなかには、李禹煥の70年代から現在に到るまでの絵画・彫刻が展示されており、安藤忠雄の建築と響きあい、空間に静謐さとダイナミズムを感じさせます。海と山に囲まれた谷間に、ひっそりと位置するこの美術館は、自然と建物と作品とが呼応しながら、モノにあふれる社会の中で、我々の原点を見つめ、静かに思索する時間を与えてくれます。